

寄稿

# 看護系の資料について

— 単行書を中心に —

山添美代

## 1. はじめに

看護関係の図書館で仕事をするようになってから17年になるが、その間看護職能団体、看護大学、卒後教育を行う研修センターといろいろな場を経験した。そして多くの看護職に接してきたわけであるが、病院図書室の方々とは少し違い、第一線の看護職というよりは看護管理者、看護学校教員、学生が主な対象である。臨床にある看護職といえば看護大学の卒業生と研修所に入ってきたばかりのナース達であり、他には個人的な体験として過去10回を超える入院時に接したナース達ということになる。

そこで日常的に臨床のナースに接している病院図書室の方々とは少し違った視点で「看護職はどんな時に本を探すか」ということを考え、看護の実践・研究に役立つと考えられる本を取り上げてみた。また側面からの効果を期待しての読み物も少しあげてみた。これらは比較的新しいもので、部分的にでも実物に目を通したもののなかから選んだ。

なお、これは筆者の偏見というべきかもしれないが、翻訳ものは理論を除いては原則としてとりあげなかった。日常の看護ケアの際に参考になる資料としては、日本の看護職が書いたもののほうが役に立つのではないかというのが筆者の考え方だからである。

## 2. 看護職はどんな時に本を探すか

### (1) 臨床での問題解決に

スタッフナースと主任・婦長クラスでは直面する問題や問題意識が異なると考えるが、一般的にいつて病棟が変わったり、新しく種々の機器を扱うようになった時など、学生時代に習った事を思い出しながらその知識の確認に参考書を探しに来るようである。この場合にはMOOKとか雑誌の増刊や特集が役に立つだろう。たとえば看護MOOK、エキスパートナースMOOK、JINブックスなどである。

看護の本ではないが、薬の本(日本医薬品集ほか)もよく利用される。しかしながら、これらの資料の使い方は多くの場合上手とはいえないので、看護関係以外の資料を活用して必要な知識や情報を引き出す方法を、図書室員から助言してほしいと考える。

### (2) 看護体制を見直したり業務の改善を図る時に

近年では看護もその質を問われる時代であり、どのような看護体制をとれば質の高い看護ができるかが考え直されていて、看護関係学会の発表にも多くみられる。これは主任・婦長クラスにとって大きな問題のようである。

### (3) 研究をすることになった時に

院内研究会・学会発表、あるいはスタッフナースと管理者というようにレベル・立場はさまざまであるが、「研究」ということはナースにとって大問題といえる。平生図書室に出入りしない人も

「何かよい参考書はないか」と出かけてくるだろう。人によって研究の素材であったり、研究の進め方であったり、まとめ方であったりと種々あると思う。過去の発表の傾向などは『日本看護学会集録』の総索引などを見れば把握できるし、文献検索の方法やまとめ方についても、なにを見ればわかるのかをサポートしてあげてほしいと思う。

### 3. 看護関係のおもな出版社—多様化の時代

10数年前(1970年代後半)までは看護の図書といえば、日本看護協会出版会、医学書院、メヂカルフレンド社の3社が中心となり、それに看護の科学社、現代社とで大部分を占めていた。その他には医学系の出版社が教科書やマニュアルの類を出版するくらいであった。しかし近年では医学系以外に学習参考書や法規類の出版社、その他不特定の出版社の刊行物もかなり見られ、まさに多様化の時代といえる。

それらについて少し紹介してみよう。

・日本看護協会出版会：

法規から臨床看護関係、教科書、読み物にいたるまで看護全般にわたって出版。

・医学書院：

上記同様、手広く出版。教科書、臨床看護の翻訳もの。看護の基本的図書、参考図書は時代の進歩に合わせて随時改訂され、鮮度が保たれている。

・メヂカルフレンド社：

出版の種類数は多くない。教科書、看護図書一帯。看護学大辞典(第3版)は定評がある。

・看護の科学社：

看護実践における患者の安全性や安楽を中心に高まった図書が多い。

・現代社：

サイチンゲールの著作中心の出版。

また文光堂(看護学双書)、学研(ナースング・マニュアル・図説臨床看護シリーズ)、照林社(エキスパートナースMOOK)、金原出版(看護MOOK)などは若いナースや看護学生にとって使いやすいシリーズといえる。日総研出版は機をみるに放な企画で種々の図書を出しているが、質的

にはやや安直な感じもある。

その他、中央法規出版、広川書店、朝倉書店、南江堂、ゆみる出版、メディカ出版等も看護に役立つ図書を出版している。

このようにさまざまなタイプの出版社が関与しているということは、看護の周辺領域の広がりを示すひとつの表れとみることができよう。

### 4. 看護関係の図書資料から一看護実践、研究のための新しい単行書等

#### (1) 臨床看護関係

①新訂 生活行動援助の技術—一人間として生きてゆくことを 川島みどり著  
看護の科学社 1991(1987) 225p.

②看護観察と判断 看護過程の展開のために 川島みどり著  
看護の科学社 1991(1988) 138p.

③尿失禁ケアマニュアル 鎌田ケイ子・中内浩二編著  
日本看護協会出版会 1992 234p.

④わかりやすいPOS ナースのためのわかりやすいPOS 林 茂著  
照林社 1991 143p. (エキスパートナースMOOK 11)

⑤あすかちゃんのPOS 中木高夫・キリ光乗作画  
照林社 1990 167p.

#### (2) 看護管理関係

看護も質を問われる時代であり、従来主流であったチームナースングに代わって患者の個別性を重視するということから、今、受け持ち方式が脚光をあびている。以下にあげる①②は関係図書の例である。③は看護業務の繁忙さを客観的に尺度であらわし、対応する人員配置を示した図書。これまで何回か日本看護学会で発表されているが、2年ほど前に単行書にまとめられた。

①クオリティケアのための看護方式—プライマリナースングとモジュール型継続支持方式を中心に 松木光子編  
南江堂 1992 177p.

②プライマリ・ナースングの導入と実践 S.G.

Wright 著 加納川栄子・満田香訳

医学書院 1991 137p.

- ③ TNS 「忙しさ」の尺度と看護人員配置  
虎の門病院看護部編  
メヂカルフレンド社 1990 168p.

### (3) 看護理論関係

臨床における看護研究も理論を背景とすることは大切である。そのような観点から理論・考え方に関するものをとりあげてみた。とくに①はナイチンゲールやヘンダーソンをはじめとして、看護にこんなに多くの理論があるのかと驚くほどの理論家の紹介とその理論を解説したものである。

オレム、ロイ、ペプロウなど人名から辞書をひくようにして調べるとよいだろう。

- ①看護理論家とその業績 Ann Marriner-Tomey  
編著 都留伸子監訳  
医学書院 1991 465p.
- ②看護モデルの理解 分析と評価 Jacqueline  
Fawcett 著 小島操子監訳  
医学書院 1990 377p.
- ③セルフケア概念と看護実践 Dr.P.R. Under-  
wood の視点から 南裕子・稲岡文昭監修  
医学書院 1987 256p.
- ④私の看護概念—看護・看護婦・看護職—  
神戸 神陵文庫 1992 224p.

### (4) 看護研究関係

臨床のナースにとって研究は頭の痛い問題のようである。しかし看護の質的向上をめざすには、日常の看護実践の中における研究は重要ということができよう。ここでは看護を研究してゆく上で参考になるような図書をあげてみた。

- ①看護における研究 南裕子他執筆  
日本看護協会出版会 1991 184p.  
(看護学大系 10)
- ②看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方  
数間恵子他著  
日本看護協会出版会 1992 106p.
- ③看護研究のための文献検索ガイド 山添美代  
・山崎茂明著  
日本看護協会出版会 1992 113p.

### ④臨床看護研究の進歩 医学書院

Vol.1 1989 223p.  
Vol.2 1990 217p.  
Vol.3 1991 220p.

### (5) 看護関係二次資料

二次資料については1990年の研修会で紹介したのでここでは追加情報にとどめることとする。

看護関係の二次資料として『日本看護関係文献集』は周知のものと思うが、最新巻から出版社が変更になり、書店ルートを通さず直接販売されることになった。

#### ①日本看護関係文献集 第23巻(1990)

タケダ株式会社メディカル出版部  
近刊

(注文先住所)

〒216 川崎市宮前区菅生2-16-1  
タケダ株式会社  
メディカル出版部 文献集係  
☎044-976-1437(代)

#### ②日本看護学会研究論文総索引 3

第19回(1988)～第22回(1991)  
日本看護協会出版会 1992 158p.

### (6) その他

看護職がさまざまな立場で記したドキュメンタリー、エッセイ等を取りあげてみた。④は、イギリスへ訪問看護の勉強に行ったナースが失禁の専門看護を学んで帰国し、日本で失禁看護を始める話で読み物としてもおもしろいが、日本の病院の失禁外来、訪問看護の実施病院等の資料もついていて参考になると思う。

- ①いのち輝く 闘病記 100冊から学ぶ  
前田志奈子著  
看護の科学社 1991 302p.
- ②ナースキャップはききみみずきん 宮内美沙子著  
未来社 1988 279p.
- ③おだやかな死 心暖かな介護のために  
エリザベス S. カラーリ著 重兼芳子・森文彦訳  
春秋社 1989 195p.

- ④おもしろ専門ナースが行く 西村かおる著  
朝日新聞社 1991 247p.
- ⑤老いを看とるナースたち—病棟からの10のレポート 榛葉由枝他著  
日本看護協会出版会 1992 210p.

5. おわりに

病院図書室の方々からナースは一体に図書資料を利用しないという話をきく。これは日常業務の

忙しさのほかに、基礎教育の時期に客観的な資料を活用して不明の点を調べる、という習慣が形成されていないことも大きな理由だといえる。したがって図書資料への依存度が低く、図書の購入希望もあまり出されないという結果になってしまうようである。急激には変わらないかもしれないが、看護関係図書資料の情報をナースに提供し、ニーズを引き出してほしいと思う。そんな際にこの一文が少しでも参考になれば幸いである。

好評発売中!!



# 人工肛門・人工膀胱の知識 第2版

腸や膀胱のない人の快適なくらしのために

●著/高屋 通子 東京都立府中病院皮膚科医長  
高橋のり子 社団法人日本オストミー協会副会長



●定価 2,300円  
B5判・128頁

多くのオストメイトや患者指導を行うナースから、わかりやすい内容で大好評を博した手引書の第2版。新しい装具の開発などに伴い内容も大幅に刷新。全ページ2色刷りとなり、より一層理解しやすくなった。またストーマの形状や装具の種類ごとに装着の仕方をわかりやすく解説。

●主な内容●①消化管のしくみと働き ②直腸 ③消化管ストーマ(人工肛門) ④泌尿器のしくみと働き ⑤尿路ストーマ(人工膀胱) ⑥便や尿の処理のコツ ⑦ストーマ用装具と付属品: その使い方 ⑧手術後 ⑨術後にみられるトラブル ⑩日々のくらし ⑪オストメイトのための福祉政策 ⑫同業者のつどい ⑬ストーマ用製品の販売会社名 ⑭ストーマ用語

Gakken メディカル出版事業部 〒145 東京都大田区上池台4-40-5 ■03-3726-8338(販売室直通)